

# 委託事業実施内容報告書

## 平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 公益財団法人大阪YWCA

#### 1. 事業名称

「地域が元気になる！おおさか日本語教育実践プログラム」

#### 2. 事業の目的

多文化共生社会の実現を目指し、異文化をもつ人たちが安心して暮らし、いきいきと活動できるコミュニティづくりに資する日本語教育プログラムを実施する

#### 3. 事業内容の概要

- ①「多文化おかあさんのための日本語学習会」: 日本語学習を媒介とした交流の場を提供した
- ②「地域で活躍できる！日本語ボランティアになる講座」: 日本語学習者に対する支援活動をするための基本的態度を身に付ける講座を開催した
- ③「子育て中のおかあさん、おとうさんのための生活日本語会話」: 子育て中の人実際に会うような場面設定で、すぐ使える会話、必要な語彙の習得や日本事情の理解に役立つ教材を開発した。

#### 4. 運営委員会の開催について

##### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	2012.9.20 15:30-17:30	2時間	大阪 YWCA 本館	氏原庸子、片山 淳子、加山従子、 和田みのり、伊東 和子、久利司、鈴 木万理、野村麻 里、福家枝里、村 井喜久美	各取り組み の共有と課 題	日本語教室の参加者 増加に向けて今から できることは何か。音 声中心の教材の具体 的内容について。
2	2012.11.19 15:30-17:30	2時間	大阪 YWCA 本館	氏原庸子、片山 淳子、加山従子、 和田みのり、伊東 和子、久利司、鈴 木万理、野村麻 里、福家枝里、村 井喜久美	各取り組み の共有	教材のテキスト、体裁 についての検討と今 後の進め方につい て。

3	2013.3.18 15:30-17:00	1.5 時間	大阪 YWCA 本館	氏原庸子、片山 淳子、加山従子、 和田みのり、伊東 和子、久利司、鈴 木万理、野村麻 里、福家枝里、村 井喜久美	事業全体 のふりかえ り	日本語教室を次年度 からどんな形で実施 するか。日本語ボラ ンティア養成事業の 継続は可能か。教材 の活用促進につい て。
---	--------------------------	--------	---------------	--	--------------------	---

写真: 第一回委員会 2012年9月20日



## 5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称 多文化お母さんの為の日本語学習会
- (2) 目的・目標

学習者は家庭と数少ない友人という限られたつながりだけで生活している。日本で生活する上での基本的な情報、子育てに必要な情報などを学習する。また学習する中では、常に受け身の状態で、本来の自分を表現する機会が少ない。文化交流体験をいかし、日本人

との交流で生きた日本語を使用し、日本文化体験だけではなく自国の文化紹介をすることで自ら表現する機会をつくる。

- (3) 対象者 日本語を母語としないお母さん  
 (4) 開催時間数(回数) 33 時間 (全 22 回)

- (5) 使用した教材・リソース  
 各講師オリジナルによるハンドアウト

- (6) 受講者の総数 13 人  
 (出身・国籍別内訳 中国5人、メキシコ3人、チリ2人、韓国1人、ネパール1人、ホンジュラス1人)

- (7) 受講者の募集方法  
 多言語(日本語、中国語、韓国語、スペイン語、英語)のチラシを作成し、国際交流センター、公民館、男女共同参画センター、多文化共生関連のNGO、教会関係等へチラシを送付し、配布・設置を依頼。大阪YWCAの日本語教師や会員にも宣伝を依頼。また、大阪YWCAのホームページや多文化の子どもや親への取り組みをしているNGOのHPでの掲載。その他、問い合わせのあった人へのチラシ送付を行った。

- (8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要
1	平成24年9月20日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	6人	中国(1人)、メキシコ(3人)、チリ(2人)	自己紹介、授業の説明	自己紹介と、授業の予定について説明。
2	平成24年9月27日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	7人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(1名)、韓国(1名)	人とかかわる	日本人のお母さんとの会話のロールプレイを行った。その中で、分からないことがあった時の聞き方を教え、実践した。それぞれのコミュニケーション能力も探り、今後の授業展開の参考にした。
3	平成24年10月4日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	7人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(2名)	マナーについて	外国人だからという理由で興味本位に立ち入ったことを聞かれることが多い。自国ではストレートに断ることが多いが、日本では気分を害さないように断ることが必要。コミュニケーションのマナーを講師から聞き、実践した。
4	平成24年10月11日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	8人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)、韓国(1人)、ネパール(1人)	近所づきあい	近所づきあいの悩みについて話し合った。それぞれの事例についてアドバイスを受講生も交え行う。その後、「誘う」、「断る」の場面を「～ませんか、～ましょう」「すみません、ちょっと」を使ってロールプレイを行った。
5	平成24年10月18日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	7人	中国(1人)、メキシコ(3人)、チリ(2名)、ネパール(1人)	自分が住んでいる地域	日本の地図をそれぞれフリーハンドで書いてみる。その後白地図に自身と関わりのある県を書く。大阪や自分の住んでいる所が地図で分からない人が数名。ひらがな表記の地図も使い自分の地図を作成した。

6	平成24年10月25日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	5人	メキシコ(3人)、チリ(2人)	自国の紹介	「私の町は〇〇」というお国自慢を発表。
7	平成24年11月1日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	8人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(2人)、韓国(1人)	防災について	防災の絵カードを使い、防災グッズについて学習した。また実際にYWCAで被災した場合の避難の仕方や、家族で災害発生時の連絡先をつくること、多言語情報をどのように得るかについて話し合った。
8	平成24年11月8日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	8人	中国(3人)、メキシコ(3人)、韓国(1人)、ネパール(1人)	料理実習	子どもは幼稚園や学校給食で日本食に慣れ親しんでいる家庭も多く、日常の食卓に日本食を出したいという要望が多く、「豆ごはん」「豚汁」「かんたん漬物」を実習。
9	平成24年11月15日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	9人	中国(3人)、メキシコ(3人)、チリ(2人)、ホンジュラス(1人)	学校などに電話をかける	子どもが病気で学校を休む、自身が授業を休む時を想定して電話のかけ方を学習。その後、YWCA受付へ電話をかける実習を行った。
10	平成24年11月22日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	8人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)、ネパール(1人)、ホンジュラス(1人)	先輩と話す	来日10年以上の先輩外国人お母さんを招き、子育てや日本の生活で困ったことについて聞いた。その後、受講生からの質問に答えてもらった。
11	平成24年11月29日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	7人	中国(3人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)	小学校入学について	就学前検診、入学準備などについて。入学準備のしおりなどを見ながら、言葉の解説ややらなくてははいけない事などについて解説した。
12	平成24年12月6日 10:30~12:00	1.5時間	山西福祉記念会館	8人	中国(3人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)、ホンジュラス(1人)	料理実習	「豆腐を使った料理」を実習。料理に砂糖を使う習慣がない人が多く、日本料理で砂糖やみりんをどのような料理に使うかなどについても教えてもらった。
13	平成24年12月13日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	6人	中国(2人)、メキシコ(3人)、韓国(1人)	日本の行事	日本の年末年始の過ごし方、年賀状について話し合い、1人2枚ずつ年賀状を実際に書いた。喪中なども説明。自分の住所を漢字で書く練習を実施。その後、お互いの国の年末年始の過ごし方について発表した。
14	平成24年12月20日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	7人	中国(3人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)	1年の振り返り、2013年の抱負	1年を振り返り、2013年の抱負について作文を書く。
15	平成25年1月17日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	9人	中国(4人)、メキシコ(3人)、チリ(2人)	料理実習	同じ料理に大勢の人が自分の箸をつける習慣がない国もあり、鍋を体験したことがない人も多く、「よせ鍋」を実習。同時に受講生も講師となり、母国料理を1品紹介した。
16	平成25年1月24日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	7人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(2人)、韓国(1人)	病気になったら	病院の種類を知り、症状にあった病院を探す方法を知る。子どもが病気になった時を想定して、症状をどのように

	2:00				人)		説明するかを話した。薬の飲み方などについても学習した。
17	平成25年1月31日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	7人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(2人)、韓国(1人)	病気になったら	前日に引き続き、病気について。救急車を呼ぶ方法について、具体的に事例をあげて練習。日祝日に病気になったとき、手洗い・うがいについて。
18	平成25年2月7日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	7人	中国(3人)、メキシコ(2人)、韓国(1人)、ネパール(1人)	交通ルール	携帯電話で話をしながら自転車に乗ってはいけない、自転車は車両扱いで車道を走る、標識の意味などを学習した。
19	平成25年2月14日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	9人	中国(4人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)、韓国(1人)	料理実習	「菜の花の和え物」「お吸い物」「れんこん団子」を実習。同時に、受講生の母国料理を1品受講生が講師となり紹介。
20	平成25年2月21日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	6人	中国(2人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)	子育てについて	乳児期、幼児期、学童期、思春期に分けて特徴や気をつける事などを話し合った。「不登校」「引きこもり」「ニート」など日本の問題、子どもが日本語の方がうまく、母国語では伝わらない問題についてなど話し合った。
21	平成25年2月28日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	8人	中国(4人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)	社会の一員になる ~学校・地域の行事について	子ども会に参加している受講生の話を聞き、子どもに関係する行事などを通して地域社会に参加する方法を知る。その他、ゴミの出し方からリサイクルについても学習した。
22	平成25年3月7日 10:30~12:00	1.5時間	東梅田教会	7人	中国(3人)、メキシコ(3人)、チリ(1人)	防災について	警報・注意報、気象情報などの用語について学習し、公的機関で発行している外国人対象の冊子などを使って説明。避難場所をたずねるロールプレイを実施。自国での防災の取り組みをそれぞれ紹介。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)



2012年11月8日(木)料理実習



2013年2月7日(木)「交通ルールについて」

(10) 目標の達成状況・成果

・文化交流体験として、日本料理を学び、日本人との交流をはかった。学習者は家庭と数少ない同じ国の友人としか普段接しておらず、学んだ日本語を実際に使う機会ともなった。受講生は、日本料理を学ぶだけではなく、自身の国の料理を紹介する文化交流、食事のマナーなどについても学習できた。

・受講生の多くは家庭では母国語を話し、日本人の友人がいない人が多いため日本語を使う場面が限られている。同じ境遇で子育てをしている人同士が学習するため、講師からだけでなく、お互いの経験でアドバイスをすることもあり有益な情報を得られた人が多かった。また、生活に必要な日本語は受講生からの希望も取り入れたため、すぐに役立つものを提供できた。授業を進めていく上で、受講している学生が日本語以外にも抱えている問題も見えてくることもあり、日本語を学ぶだけではない居場所になった。

・保護者が社会と関わる上で必要なコミュニケーションを実践した。実践の1つとしては、子どもの体調が悪く学校や保育園へ連絡する場合の電話のかけ方について、YWCAの受付に実際に電話をかける実習を行った。

・「防災」をテーマに災害に備え、対応するために学習した。普段、テレビやラジオから情報を得ていない人も多く、母国の親族との連絡方法や多言語情報を取得の仕方などについても大変関心をもって学習していた。また、防災グッズについて絵を見てイメージし、災害が起こった時にどう対応するかをクイズ形式で学習した。

(11) 改善点について

受講生は家族や限られた人しかつきあいがなく、授業で習得した日本語を使う場面が極端に少ない。家庭での学習時間も限られており、実践の場が少なく日本語の上達が遅い。週1回の授業以外にも日本語を活用する場面をつくる必要がある。

また漢字圏と非漢字圏の国では、生活場面での情報量が違う。日本語学習をする中でも、日本で生活している人が少数の国などは、自国の言語が電子辞書にないなど、学習環境が異なる。日本に滞在している少数の国の人へのフォローが必要。

## 6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称: 地域で活躍できる！日本語ボランティアになる講座
- (2) 目的・目標: 地域のボランティアとして活躍できる人材を育成することで、多文化共生社会実現の一助となることをめざす。日本語支援に必要な、日本語を外国語として分析する考え方や、初級者にも分かりやすい日本語の話し方など、具体的な活動方法のほか、対人援助者としての姿勢を学んだり、異文化理解を深めることのできる講座を実施する。
- (3) 対象者: 異文化理解に関心があり、日本語ボランティアをめざす人
- (4) 開催時間数(回数) 26 時間 (全 13 回)
- (5) 使用した教材・リソース: 各講師の作成したハンドアウト
- (6) 受講者の総数 28 人  
(出身・国籍別内訳 日本 28人)
- (7) 受講者の募集方法  
各国際交流協会や生涯学習センターにパンフレット、ポスターを送り、周知してもらったほか、大阪YWCAの機関紙発送に同封した。また、前年度の同講座の受講者に送り、広報協力を依頼したところ、ボランティアグループのメンバーに勧めてくれたケースが多かった。
- (8) 養成・研修の具体的内容

回(※)	開催日	時間数	受講人数	会場	内容
①	10月26日(金)	2 時間	23 人	大阪YWCA本館	在日外国人の現状とボランティアの役割を知る
②	11月2日(金)	2 時間	24 人	大阪YWCA本館	対人援助者としての基本姿勢と異文化理解
③	11月9日(金)	2 時間	24 人	大阪YWCA本館	地域の日本語教室の役割を理解する
④	11月16日(金)	2 時間	25 人	大阪YWCA本館	外国語としての日本語を知る
⑤	12月7日(金)	2 時間	23 人	大阪YWCA本館	外国語としての日本語を知る
⑥	12月14日(金)	2 時間	23 人	大阪YWCA本館	日本語が話せない人とどうやって交流するか
⑦	1月11日(金)	2 時間	22 人	大阪YWCA本館	分かりやすい日本語を知る、交流体験
⑧	1月18日(金)	2 時間	23 人	大阪YWCA本館	初級レベルの人との活動を知る
⑨	1月25日(金)	2 時間	25 人	大阪YWCA本館	初級レベルの人との活動を知る
⑩	2月1日(金)	2 時間	24 人	大阪YWCA本館	対話型の活動を知る
⑪	2月8日(金)	2 時間	22 人	大阪YWCA本館	対話型の活動で使える素材と進め方
⑫	2月15日(金)	2 時間	21 人	大阪YWCA本館	身近な話題で話す、交流体験
⑬	2月22日(金)	2 時間	25 人	大阪YWCA本館	今後の活動に役立つ情報共有と、交流のまとめ

(9) 特徴的な授業風景:

- ・2012年11月2日「異文化理解とボランティア」
- ・2013年2月15日「身近な話題で話してみよう」







- (10) 目標の達成状況・成果 毎回、「ふりかえりシート」に、感想や疑問点を記入してもらったほか、最終回に受講者アンケート(別添)を実施した。伊東、野村両講師が、毎回丁寧に参考図書を紹介をし、受講者の相談に乗ったことが非常に好評であった。特に文化庁の「標準的なカリキュラム案」等は、あることを知っていても、実際に手にとって読む機会が少なかったらしく、利用法が分かってきたと感謝された。すでに地域の日本語教室でのボランティア活動をしている人にとっては、現場ですぐ役立つ知識や姿勢を学べて良かったとの感想が多く聞かれた。これからボランティアをめざす人からは、難しい点も多かった反面、益々やる気が出てきたとの頼もしい感想。いずれもこれからの地域での活躍が期待できる。当初の目的は達成されたと言える。
- (11) 改善点について 昨年度より、2回少ない13回の講座となった。講師からは、やはりあと2回欲しかったとの意見が出た。

## **7. 日本語教育のための学習教材の作成**

- (1) 教材名称 子育て中のおかあさん、おとうさんのための生活日本語会話
- (2) 対象 出産前後から6歳くらいまでの子どもを育てている、異文化からきたおかあさん、おとうさんたち
- (3) 目的・目標 異文化の中で子育てをしている親たちに、日本の子育てに冠する情報を提供し、必要な生活日本語を身に付けてもらう
- (4) 構成 会話と重要表現の例文、イラストで構成。英語と中国語の訳文
- (5) 使い方 ボランティアの日本語教室で使うことを想定。はじめに音声を繰り返し聞いて、どんな場面か想像する。ボランティアの説明やイラスト、訳文の助けを借りて場面を理解し、再び聞いて、部分的にシャドーイングする。徐々に発話部分を多くする。ボランティアとテキストを見ないで会話を再現してみる。
- (6) 具体的な活用例  
「26 仕上げ磨き」  
①音声を聞く 最低3回

- ②聞き取れたことばを挙げてみる「ママ」「じゅん」「歯ブラシ」
- ③ボランティアと、登場人物の確認
- ④「あぐら」「仕上げ磨き」など、理解しにくいことばをイラストで補う
- ⑤場面が理解できたところで、再度聞く
- ⑥4回目くらいから、部分的にシャドーイング
- ⑦徐々にシャドーイング部分が長くなったら、ボランティアとロールプレー
- ⑧確認のため、訳文をざっと読む
- ⑨日本語のシートを見ながら、仕上げのロールプレー
- ⑩「服を着替えさせてやって」など、親しい人に依頼するときの表現を読み、できれば応用する

(7) 成果物の添付 別添

## 8. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的

多文化共生社会の実現を目指し、異文化をもつ人たちが安心して暮らし、いきいきと活動できるコミュニティづくりに資する日本語教育プログラムを実施する。

### (2) 目標の達成状況・事業の成果

「学習会」では、参加者からの聞き取り、「養成講座」では、受講者から毎回の「ふりかえりシート」提出と最終アンケートを実施した。「教材」については、完成が年度末になってしまい、実際に使用しての評価を聞くところまではできなかったが、いくつかの国際交流協会等でサンプルを見てもらい、内容、形式とも現場で役立ちそうとの感想を聞いた。

「学習会」は、日本語を学ぶ教室という機能に加え、地域で孤立しがちな人たちが集い、情報交換し、友情を育む交流の場ともなった。料理を媒介とした日本人ボランティアとのやり取りなどで、「先生」以外の日本人と話せたことはそれぞれの自信につながった。また、防災についての授業は、ほとんどの人が初めて触れる内容であった。

「養成講座」は、前年度以上の盛況となった。全13回と2回少ない講座実施であったが、受講者は非常に多くのことを学べたと感じてくれた。日本語を外国語として客観的にとらえ、学習者にとってどこが難しいか、どんな例文を示せば理解しやすくなるか等、日本語指導の基本的な考え方はもちろん、会話を活性化するための材料集めや準備することの重要性など、活動に臨む姿勢を学べたとの声が多く聞かれた。

「教材」は、子育てに必要な場面を「標準的なカリキュラム案」からピックアップして6名の執筆者が分担し、作成した会話を持ち寄り調整を重ねた。子育てのガイドブックではなく、あくまでもコミュニケーションを取るための会話教材という方針で制作した。なるべく場面を絞り込み、執筆した会話をそぎ落としていったが、それでも当初の予定をかなり上回るボリュームとなった。そのため、完成が年度末間際となり、試用には至らなかった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

「教室」では、Vのシラバスを基本に、Iの01, 02も取り入れてカリキュラムを組んだ。特にI-02を活用した防災の授業が好評であった。「養成講座」では、講義内容に盛り込んだだけでなく、会場で手にとって読んでもらい、活用法についての質問を受け付ける時間ももった。「教材」は、Vの下位項目から場面を選定して会話を作成した。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

3事業とも、大阪府内の国際交流センター、生涯学習センター等で広報してもらった。担当者とのコミュニケーションが前年度よりさらに密になった。日本語教室担当職員が、講座の見学に来られた例もある。大阪市の生涯学習担当者は、講座最終日にボランティアの日本語教室についての説明してくれた。「教材」の今後の活用についても依頼を進めているところである。

(5) 改善点, 今後の課題について

「教室」「養成講座」は、委託事業ではなく独自事業としてどのように展開できるか、実施費用をどうまかなうかを含め検討してゆく。「教材」は、地域でどれだけ活用してもらえるかが最大の課題なので、広報に努める。